

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<9>

未来守(さきも)りネットワークは2005年から年1回のペースで、子どもたちと一緒に1級河川や水路を巡り、タナゴの仲間「アカヒレタビラ」や水中生物の生息調査を行っています。

海藻や魚介類の再生には、海に注ぐ川の水環境の改善が必要だと考え、未来守りチャイルドクラブの子どもたちと川に生息する動植物を調査することになったのです。

河川や水路などの生態系は毎年変化しています。昨年の8月調査の結果を見ると、その傾向が著しく、ある水路では今までいたア

## 共存共栄

カヒレタビラや多くの魚介類が激減していました。

主な原因として、外来種の増加や無策ともいえる水路改修などがあります。また昨年の夏は猛暑による高温障害により、農作物に農薬や追肥を大量に使用しました。これらを含んだ水が水路などに流れ込み、水質に何らかの影響を与えたのではないかと考えます。このように河川や水路

## 自然や環境考え行動を

で、富栄養化による水草の異常繁殖が見られたことは、中海で異常発生している海藻類と同じであると思

っています。川や海も人間の営みによって流出した汚染物質を吸収し、水質を浄化しようと

水草や海藻類が繁殖することです。身近な自然や水環境を考え、行動する時期に来て



たも網を手に、川の生き物を調査する未来守りチャイルドクラブの子どもたち

いると思います。

自然環境を保護することが重要であることを、未来守りチャイルドクラブの子どもたちは、川・海の生物の再生や水質浄化の活動を通じて少しずつですが理解してきています。

私が子どもたちに常に言っている言葉に「共存共栄」があります。自然は、私たちに時には厳しい表情を見せますが、再生できないほどに痛めつけることはありません。しかし、人の営みには、貴重な動植物を根こそぎ死滅させる可能性を秘めています。

子どもたちが未来守りネットワークの活動を通じて自然に親しみ、「環境や生き物を守る」ことを忘れないでほしいと願っています。

(未来守りネットワーク 理事長・奥森隆夫)